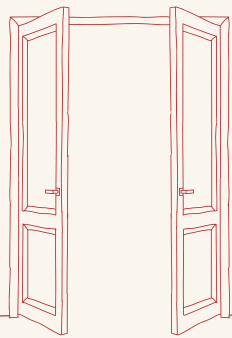


私のネクストステージ

—退職者への質問状—

Vol.29



退職後に出会った 仲間たちと会社を設立

元民間企業（メーカー）勤務
田中 幸徳さん（69歳）
2009年3月定年退職



【たなか・ゆきのり】1948年福井県生まれ。大学卒業後、民間企業に入社。2009年同企業を定年退職し、NPO法人等で就労支援の教育訓練事業に従事。2016年勤務先の業務縮小を契機に、NPO法人で出会った仲間たちと共に株式会社アビリティプラスを設立。パソコン教室・ロボット教室・プログラミング教室等を通して子どもからシニアまでの能力開発、コミュニティづくりに貢献する企業を目指して奮闘中。

—退職前はどのような会社で、どのようなお仕事を担当されていましたか。

メーカーに入社し、当初は生産工場で化学プラント部門のシフトリーダーをしたり、工場出荷品のユーザーへの苦情対応と、工場現場へのフィードバックを担当したりしていました。その後、本社で生産管理・物流・購買等のスタッフ部門の業務を担当し、さらに全社のシステム・物流等の在庫と調達コストの削減を任されました。この時得た経験と人間関係が、後々の組織人としての在り方に大きく影響していると思います。

—いざ退職を迎えられた時、どのような思いを抱かれましたか。

退職当初は開放感で一杯でしたが、組織を離れると緊張感も無く周囲との対話も減少したため、半年くらい経過した頃から体調もすぐれない感じがしていました。やはり外に出ていろんな人と交流することが必要だと考え始め、職種に関わらずできれば現役時代に経験の無い分野で就業しようとして、NPO法人へ所属することにしました。

—その後、株式会社Aの起業に至るわけですね。

NPOでは多くの出会いがありました、中へ入ってみると掲げる理念と現実とのギャップを痛感しました。そんな折、再就職を目指す方を対象とした就労支援事業の立ち上げを任せました。それが軌道に乗った頃、別の企業に誘われて同様の業務を継

続していましたが、経営者の体調不良による事業縮小を契機に、3人の仲間と共にパソコンとその周辺業務をベースにした株式会社アビリティプラスを起業することとなりました。

—アビリティプラスとは、どのような会社でしょうか。

キッズからシニアまでの能力開発に資することを理念にスタートしました。従業員は社員3人とパート3人です。現状はパソコン教室と併せて子ども向けのロボット教室、プログラミング教室を運営しています。その他に受託研修の実施や、パソコンを使ったCBT方式（コンピューターを利用した試験形式）のテストセンターを運営しています。

—経営をされる上で、工夫されている点、こだわっている点はありませんか。

当初シニア層の顧客が主になると考えていましたが、現状では2020年の小学校の指導要綱改訂によるアクティブラーニング、プログラミング的思考方法の導入を受け、子ども向けのロボット教室・プログラミング教室への入会が増えています。このためカリキュラム開発を進めて授業の質的向上を図ると共に、社内研修等を通して講師のスキルアップを目指しています。

また相談室を設置し、パソコン操作性向上のためのアドバイスやトラブル対応を行っています。さらにパソコン整備士、MO



講師のスキルアップも課題の1つ



当初はシニア層が主な対象になると考えていました



ロボット教室で楽しみながら学ぶ子どもたち

S（マイクロソフトオフィス製品の操作スキルを証明できる国際資格）等の資格取得講座の受講者の拡大を目指し、各種媒体を通じた集客活動を進めています。

——起業された当初、どのようなことで苦
 劳しましたか。その苦劳を克服するために、
 何か工夫はされましたか。

今も続いていますが集客が最も重要です。これまでは新聞折込やポスティング中心でしたが、今後はSNSや友達紹介制度を活用しながら効率的に進めていきたいと考えています。その他、講師の対応力アップに注力し短期退会を防いだり、5歳以上の子どもへの教育のレベルアップに努めたり、各講座の質の向上を目指しています。

——起業されることについて、周囲の方々の反応はいかがでしたか。

時間的余裕もなく起業したため、周囲の反応を探る暇もなくスタートすることとなりましたが、賛成してくれる人もいれば、「その歳でよくやるな」と半ばあきれている人もいました。

——やりがいを感じるのはどのような時でしょうか。

体験会の時には、お母さんと離れて泣きそうな顔をしていた幼稚園生が、半年後には立派にロボットを作れるようになったり、シニアの方が教室で作った年賀状を、「多くの人から良くできていると言われたよ」と嬉しそうに報告してくれた時です。ま

た、再就職を目指して教室に通っていた人が、MOS試験に合格して嬉しそうな顔をしているのを見ると、やっていて良かったと大きな喜びを感じます。現役時代の企業間取引とは異なり、直接生徒さんたちの反応を見ることができる醍醐味があります。

——今後やりたいことはありますか。

起業当初の目論み通り、キッズからシニアまで世代を超えた交流の場を提供したいと考えています。また、この流れを次の世代に引き継げるように、できるだけ早く経営を安定化したいです。

——休日はどうな風に過ごされていますか。

この仕事は土日が忙しく、むしろ退職前よりも休みが少なくなりましたが、今のところ頑張っています。趣味は演歌を聴いたり、コンサートに行くことです。もう少し会社が安定したらいろいろ出かけたと思っています。

——最後に、退職を間近に控えている人々に対しメッセージをお願いします。

人生100年時代で70歳はまだまだ先があり、新しいことを始める時間は十分あると思います。大切なのは心と体の健康維持です。起業する場合だけでなく、様々な組織に属する場合でも、シニアには広い知識と多くのネットワークを持つことができることが期待されています。できるだけ多く充電をし、セカンドステージに挑戦してください。

——お話し頂き、ありがとうございました。